



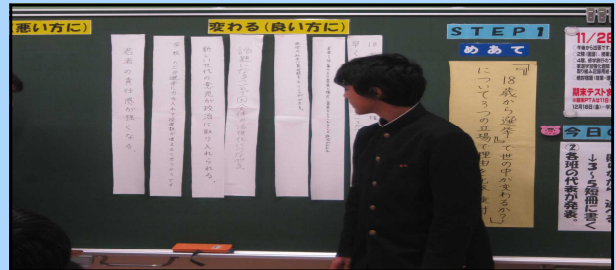
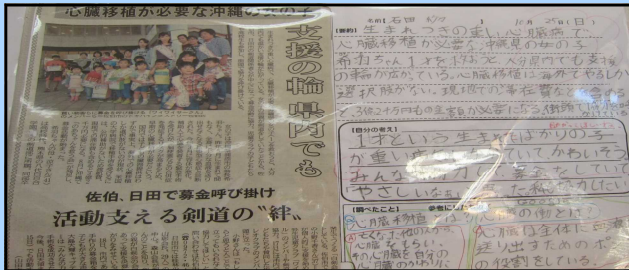
定期学校訪問シリーズ⑱ ～彦陽中 八幡小～

思考力・判断力・表現力を高める授業へ!

八幡小学校、彦陽中学校では、児童生徒が日常生活の中で体験していることを授業で取り上げ、それらを分析的・批判的に考えたり、自分の考えと比較しながら理由や根拠を明確にして表現したりする学習を授業に位置付けていました。

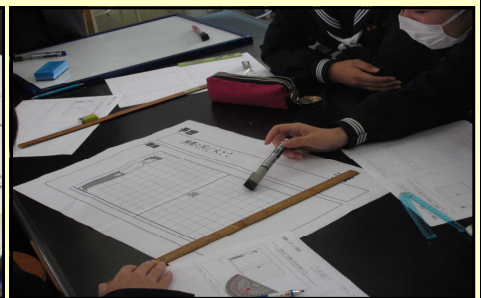
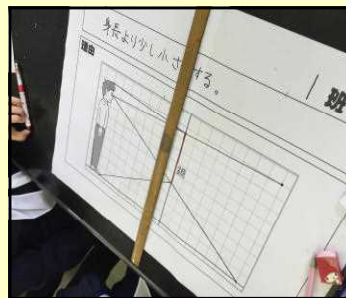
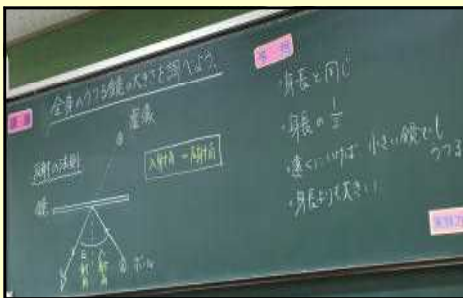
児童生徒の考えや思いには、大概根拠や理由等があるものですが、時に思いつきがあったり無自覚なことも多いものです。教師は、常に児童生徒に考えが持てるような展開をすすめる一方で、確認させ、相互作用の中で取り込み、更新していく力を付けていけるよう、きめ細やかな指導を行っていくことが大切です。

小・中学校国語科の取組 ～コラム学習で授業をつなぐ～



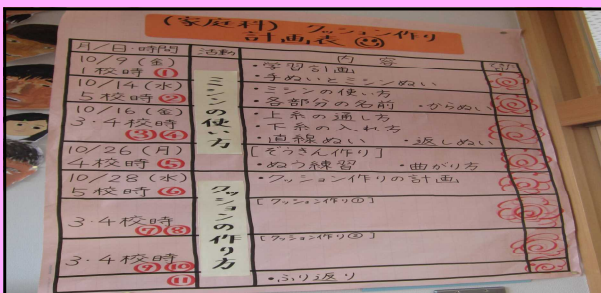
八幡小5年生と彦陽中2年生の国語科の授業では、いずれも新聞のコラムを用いた学習を行いました。小学校では「記事の要約と自分の考えをつなげ表現する活動」中学校では「根拠や理由を明確にして互いの考えを交流する話し合い活動」を行っていました。小・中で連携してカリキュラムレベルで系統性を確認し、それに沿って付けたい力を確実に育てていくことが期待できます。

中学校理科の取組 ～日常の体験について理科の知識を用いて分析的に思考する～



分かりやすくするためにハードルを下げる指導もありますが、生徒の分かってもらうためのハードルを上げる指導も大切です。本時は、「自分の全身が映る鏡の大きさはどれくらいか」を生活体験を基に予想し、「入射角」や「反射角」など、すでに学習した知識を用いながら班で協力して説明する活動に取り組んでいました。

小学校家庭科の取組 ～中学でも有効! 単元構想に基づく学習計画の提示を～



八幡小学校では、家庭科においても国語科と同じように、単元構想に基づく学習計画を掲示し、見通しをもたせた取組を行っていました。

児童は学習することや付けるべき力を自覚しながら毎時間の学習に取り組むことができます。

中学校において、学級掲示等が難しい場合は、プリントにしてノート等に貼らせるとよいでしょう。